

[特別講演 I]

獨逸学協会学校の転換
——法律学校から医学予備門へ——

新宮 讓治

獨逸学協会資料センター委員

はじめに

獨逸学協会学校専修科は司法官僚養成の法律学校として、また専修科廃止後に残された普通科は、第一高等中学校(後の第一高等学校)を経る帝国大学医科大学、及びその他の医学教育機関予備門としての特色によって学校維継続を担った。以下は、変質ともいえる転換を遂げた稀有な学校の歴史である。

獨逸学協会学校の創立

自由民権運動の側に立つ早期国会開設論者・大隈重信(参議・佐賀藩出身)一派が、国会開設時期尚早とする伊藤博文(参議・長州藩出身)らの画策で政府を追放された(明治14年の政変)。獨逸学協会は、その政変直前に結成された。8代校長司馬亨太郎は、「英米仏の自由主義をおさえ、堅実なる君国日本の将来を築く為に獨逸の法律政治の学問を取入れようとする獨逸学協会¹⁾」と評価する。

1883年(明治16)に東京麹町区五番町に獨逸学協会学校が開学、翌84年に神田区小川町に移転、87年(明治20)頃に完成する。「明治四十一年調査」には、「(明治二十年五月)普通科ノ課程ヲ五年五級トナシ、第一高等中学へ入学スヘキ生徒ト、本校専修科ニ入学スヘキ生徒トヲ養成ス。専修科ノ課程モ亦三年三級ト為シ、専ラ法律政治学ヲ教授スルコトス²⁾」とあり、専修・普通両科を併設していた。普通科が専修科以外に第一高等中学校進学者養成の役割は、後に帝国大学医科大学進学への途を開く下地を形成した。

特別認可学校

「帝国大学令」(1886年 明治19)は「帝国大学ハ国家ノ須要ニ応スル學術技芸ノ蘊奥ヲ攻究シ、又ハ學術技芸ヲ講修シ、及學術技芸ノ応用ヲ習練セシム」と国家的性格をうたい、特に帝国大学法科大学は高級官僚養成の任務を担った。

次いで「文官試験試補及見習規則」(1887年 明治20)が制定され、帝国大学法科大学卒業者は無試験で、私学の特別認可学校(「文部省令」1888年 明治21)卒業生は、文官高等試験合格を経て高等官試補に任用された。最初に獨逸学協会学校専修科を、他に明治法律学校・東京法学校・東京仏学校(フランス系法律学校)、専修学校・英吉利法律学校・東京専門学校(イギリス系法律学校)が特別認可学校に認可された。

第一高等中学校と獨逸学協会学校普通科

1889年(明治22)、第一高等中学校は「尋常中学校ノ卒業生ニシテ、該校長ノ品行方正、學術優等、身体壯健ト認メタル者ハ、試業ヲ須ヒスシテ学力相当ノ学級ニ編入スヘシ³⁾」と、校長推薦者の無試験入学を認めた。特に、獨逸学協会学校と学習院は、1892年(明治25)に「該校普通科最上級を卒業したる者は本校相当級へ編入⁴⁾」との特別規定が適用された。高等中学校相応の学力ある生徒の需要に対する供給に応じ得ない、尋常中学校未整備のなかの生徒確保策であった。

高等学校令公布と医学進学に有利なドイツ語

井上毅文相のもとで、1894年(明治27)に「高等学校令」公布、高等学校は第三高等学校など例外を除き、帝国大学予科の性格を強めた。高等学校発足に際し、帝国大学は医科大学進学希望者に対する次の措置を、第一高等学校に要求した。

「第一外国語ハ独逸語トシ、成ルヘク多クノ時間ニ於テ之ヲ課スルヲ要トスルヲ以テ、他ノ部ニ異ナリ第三部(医科進学コース)ニ於テハ第二外国語ヲ随意科トス⁵⁾」

第一高等学校は、三部は「独語ヲ入学試験ノ外国語トスル」とし、「入学セントスル者ハ、他日大学ヘ進入ノ上修メントスル専門学科ヲ予定シ⁶⁾」と入学希望生徒を指導し、唯一ドイツ語を学習する獨逸学協会学校卒業生は入学が有利となった。以後、第一高等学校三部を経る帝国大学医科進学の途が定着した。(下図参照)

1904年(明治37)獨逸学協会学校中学医学進学者

卒業者 108名(うち医学進学者 71名)

第一高等学校三部進学者	40名	}	東京帝国大学医科進学者	22名
			京都帝国大学医科進学者	6名
			九州帝国大学医科進学者	8名
			不明	4名

医学専門学校進学者 31名

結語

獨逸学協会学校は、自由民権に対抗して君国日本を目指した保守派による創立の由来から、宮内省下賜金・文部省助成金・司法省補助金など多様な政府助成を受けたが、近代化、特に帝国議会開設は特権的庇護を許さず、1895年(明治28)に専修科は廃止された。

その後、普通科が医学進学の前備的存在として学校を維持できたのは、①ドイツ語学習の第一高等学校三部入学試験に対する有利性、②「帝国大学令」下初期に高等中学校に対する尋常中学校生徒不足の事態に、短期間ながら獨逸学協会学校普通科による補完の実績が、その後も既得権的に継承し得たからである。この学校史の特殊性が、第二次世界大戦後に、獨協医科大学創設の学内輿論を形成する基礎となった。

注

- 1) 司馬亨太郎「獨逸学協会学校創立の意義と其事情」『獨逸学協会学校五十年史』(1933年), 8頁。
- 2) 『獨逸学協会学校逸学協会学校中学一覽』(1908年), 3頁。
- 3) 「第一高等学校入学規則」『第一高等学校六十年史』(1936年), 196頁。
- 4) 同上『第一高等学校六十年史』, 216頁。
- 5) 同上, 239~40頁。
- 6) 同上, 247頁。